

佳作

言葉と命

美郷町立大和中学校 3年 玉岡知恵子

昨年は芸能人や有名人の自死が続きました。自死の本当の理由は分かりませんが、亡くなったどの人も、SNS上で誹謗中傷を受けていたことが理由の一つに考えられています。

誹謗中傷の意味について調べると、「根拠のない悪口を言いふらして他人を傷つける行為」とありました。そしてそれは言われた側の人権を奪い、言葉を使ってその人の精神状態を追いつめ、最悪の場合、その人の命までも奪ってしまうことがあります。

昨年五月、元プロレスラーの木村花さんがこの世から去ってしまいました。木村さんはそれまである番組に出演しており、その番組内での言動をきっかけにSNS上で誹謗中傷が始まったそうです。誹謗中傷が直接的な自死の理由だったという根拠はないものの、彼女のSNSには毎日百通を超える批判コメントが寄せられていたそうです。中には「お前がいなくなればみんな幸せ、早く消えて」といったコメントがあったそうです。

私はこの事件をニュースで知り、誹謗中傷の恐ろしさについて初めて気づかれました。その恐ろしさとは、声に出さなくても誹謗中傷を打ち込む指一本だけで簡単に人を死に至らせてしまう危険性があることです。彼女が見ず知らずの人から、なぜたくさん罵声を浴びなければならないのかと思いました。もしこれが自分に降りかかってきたら耐えられないし、自分が悪いことをしたわけではないのと思い、苦しい以外の感情がなくなってしまうと思います。

ですが、こんなにも恐ろしい事件が起こり誹謗中傷のせいで自死を選んだ人達がたくさんいるのに、この世の中から誹謗中傷はなくなりません。それはなぜなのか。私は「SNS」という顔が見えないものがあるからだと思います。「匿名」だから、自分がどこの誰かがばれる心配がなく、「みんなが言っているから自分も言って良いだろう」と安易な考えをもつ人もいます。そして、相手の気持ちを考えずに自分の思ったことをそのまま書いてしまう人が多いと思います。さらに誹謗中傷による自死が起きると、「自分は悪くない」と罪を他人に着せたり、自分の身を守るために自分の都合のいいように考えたりする人がいます。このような考えがあるから誹謗中傷はこの世から消えないのだと思います。

自分の発する言葉にはどのような意味や意識をもっているかを振り返り、言葉に対する意識を変えれば、誹謗中傷は少しは減っていくと考えます。なぜなら、私にはそう確信させるものがあるからです。それは私の好きな「一つの言葉」という詩です。

一つの言葉でけんかして

一つの言葉で仲直り
一つの言葉で頭が下がり
一つの言葉で心が痛む
一つの言葉で楽しく笑い
一つの言葉で泣かされる
一つの言葉はそれぞれに
一つの心を持っている（後半略）

私はいつもこの詩を見て、言葉の表現の深さや数の多さに驚き、言葉というものの使い方の難しさを深く感じます。日常生活で何気なく発した一言も、相手からすれば傷つく言葉かもしれません。言葉は使い方によって、相手を笑顔にさせたり幸せにしたりする一方、一瞬で相手を苦しめ傷つけたりすることもあります。自分の言葉には自分自身でブレーキをかけることができます。だから一人一人が言葉の重みを考えて発言するべきだと私は思います。でも、亡くなった方の命は返ってくることはなく、私たちが過ごしているような平穏な日々を送ることは二度とできません。誹謗中傷が一つあるだけで、簡単に相手の精神状態までも追いつめ、相手を死に至らせてしまう可能性があるのです。

私が紹介した詩にはこんな続きがあります。

きれいな言葉はきれいな心
優しい言葉は優しい心
一つの言葉を大切に
一つの言葉を美しく

これは、「言葉は心の鏡だから大切に扱うんだよ」というメッセージ性を感じられ好きな詩です。私は相手を思いやる優しい気持ちをこの詩のおかげで持ち続けられています。

この詩を知って私が願うことは、相手の気持ちをくみ、お互いの思いを大切にすることです。人は一人一人に個性があり、違う心を持っているからです。しかも相手の気持ちのすべてまでは分かりません。だからこそ誰もが自分の心や気持ちを、言葉を大切に使って伝えて生活してほしいと思います。誰もが自分の発言に責任を持ち、思いやりの気持ちを持ち続けてほしいと思います。

早くこの世から誹謗中傷という言葉の凶器がなくなりますように。